日本語学基礎演習1

日本語の誤用について

尾渕班

0309071　尾渕広明

0309143　髙橋直希

はじめに

日本語語句のうち、誤用されやすいと考えられる言葉についてアンケート調査を実施し、言葉の意味と使い方についてそれぞれ5語、計10語を選出。辞書に載っている意味、および使い方を正解、それ以外のものを不正解としてスコアをつけた。

調査対象は日本語学基礎演習1を履修している文理学部生19名で、有効回答数は17である。

質問項目（意味誤用）

Ⅱ．（1）～（5）の言葉の意味として、A・Bどちらの意味が正しいと思いますか？正しいと思う方の記号に〇を付けてください。（赤字が正解）

（1）気が置けない　A.気が許せない
B.気を使う必要がない

（2）姑息　A.一時的な間に合わせ
B.卑怯

（3）情けは人の為ならず　A.親切は相手のためだけでなく、良い報いとして自分に戻ってくること
B.甘やかすのはその人のためにならないこと

（4）役不足　A.役目に対し、その人の力量が不足していること
B.その人の力量に対し、役目が軽いこと

（5）確信犯　A.罪と知りながら行われる犯罪
B.自らの行為を正しいと信じて行われる犯罪

質問項目（使い方誤用）

Ⅲ．（6）～（10）の言葉の使い方として、A・Bどちらの使い方が正しいと思いますか？
正しいと思う方の記号に〇を付けてください。（赤字が正解）

（6）A.白羽の矢が当たった。
B.白羽の矢が立った。

（7）A.幸先の良いスタート。
B.幸先の悪いスタート。

（8）A.予防線を引く。
B.予防線を張る。

（9）A.熱にうなされる。
B.熱に浮かされる。

（10）A.取り付く島もない。
B.取り付く暇もない。

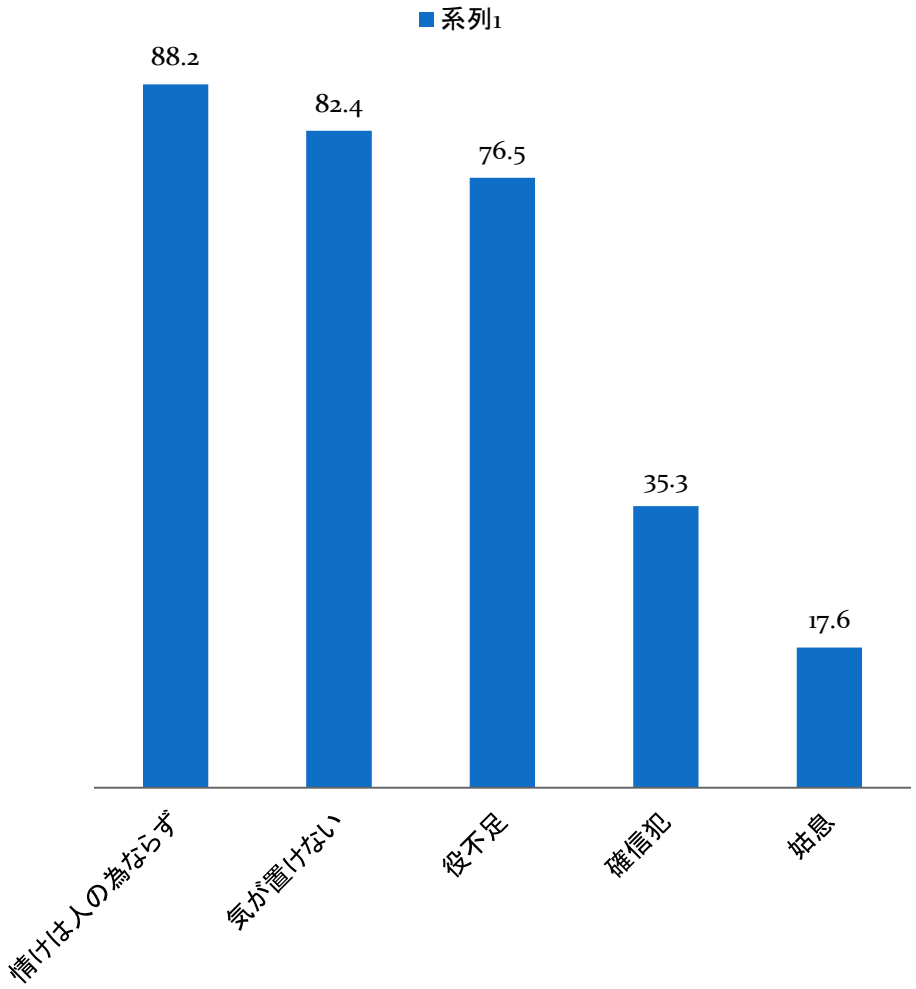
スコア算出方法

意味、使い方において間違った用法で認識されやすい言葉を吉沢典男氏の『どこかおかしいあなたの日本語』（幻冬舎、2003年）からそれぞれ選び、日常的に目にすると考えられるものを問題とした。アンケート項目Ⅱ（1）～Ⅲ（10）までの問いについて1問1点とし、10点満点で計算して、スコアが高いほど誤用は少ないと判断する。

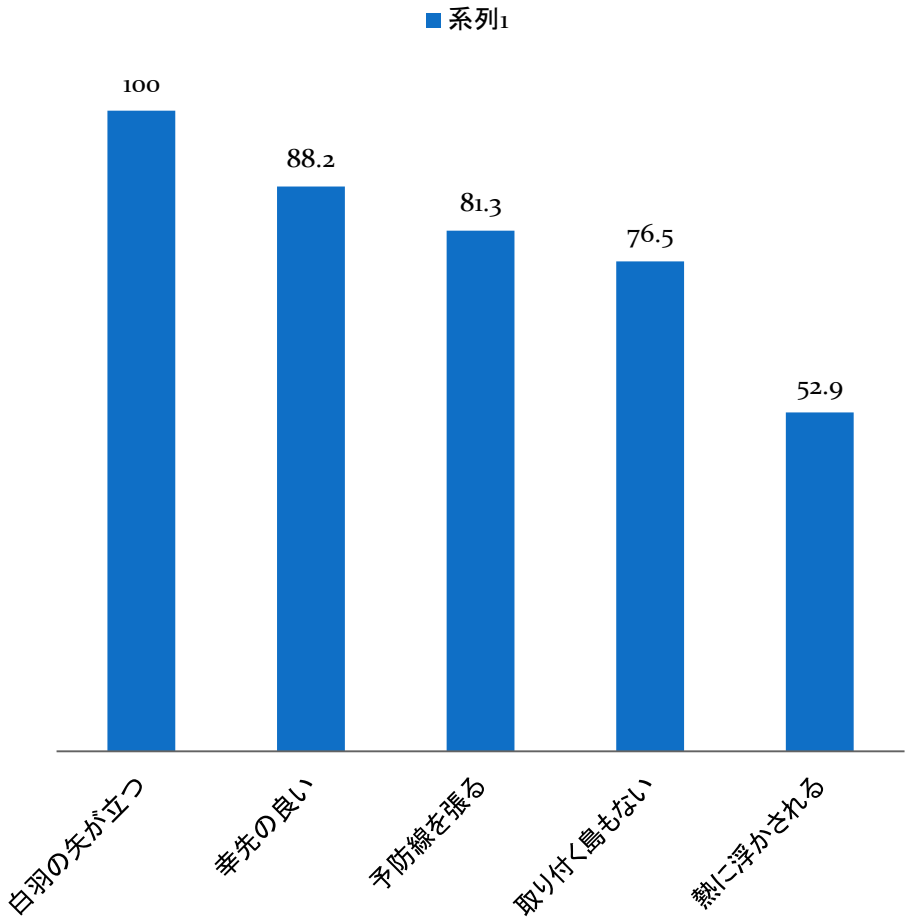
	度数	範囲	最小値	最大値	平均値	標準偏差	分散
スコア	17	7	3	10	6．94	1．749	3．059

各問題の正答率

意味誤用　n＝17



使い方誤用　n＝17
「予防線」のみn＝16



各問題の正答率の結果と考察

　各５問中、意味誤用では3問、使い方誤用では4問が正答率７５％以上の結果を残した。これらは「間違いやすい言葉」として知られており、そのため正答率が高いと考えられる。「熱に浮かされる」は正答率がおよそ５０％で、正誤は半々であった。特に正答率が低かった「確信犯」と「姑息」は、間違った認識が広まっており、それがそのまま日常的に使用されているためであると考えられる。

仮説2　文芸（小説、随筆、評論等）関連の書籍を読む機会が多いほど誤用は少ない。

質問文

②一ヶ月のうちに、文芸作品（小説、随筆、評論など）の書籍をどのくらい読みますか？

（約　　冊）

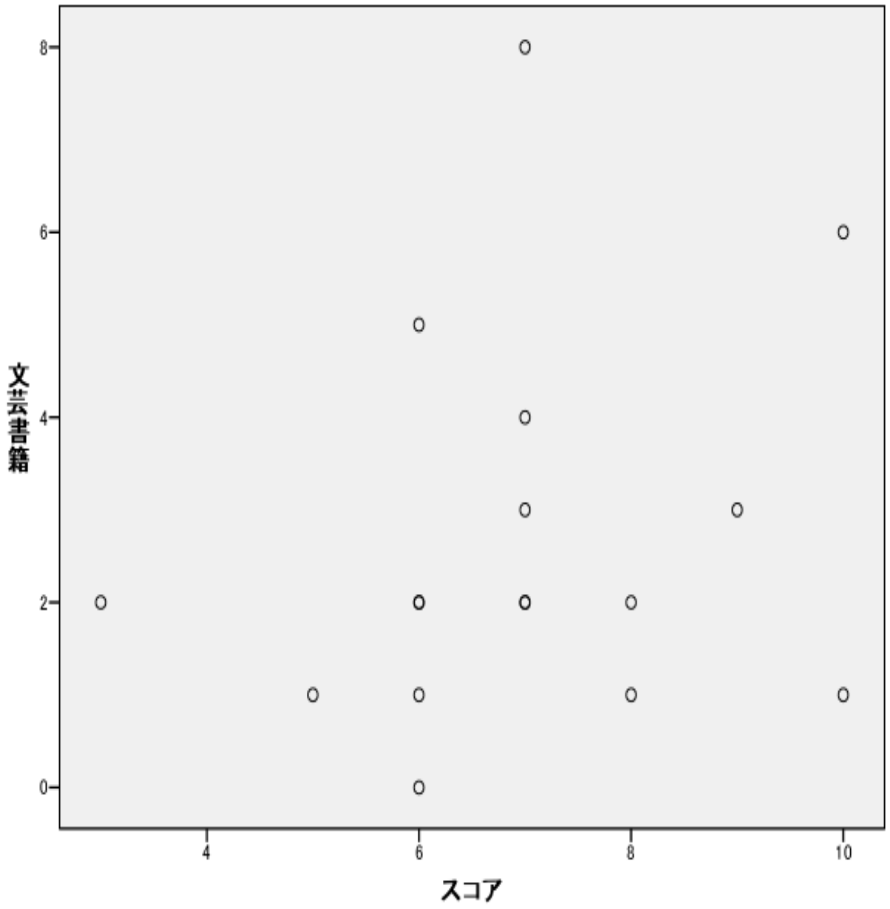
（尾渕）

有効回答数　N＝17

最小値　0冊　　最大値　8冊　　平均　2．65冊

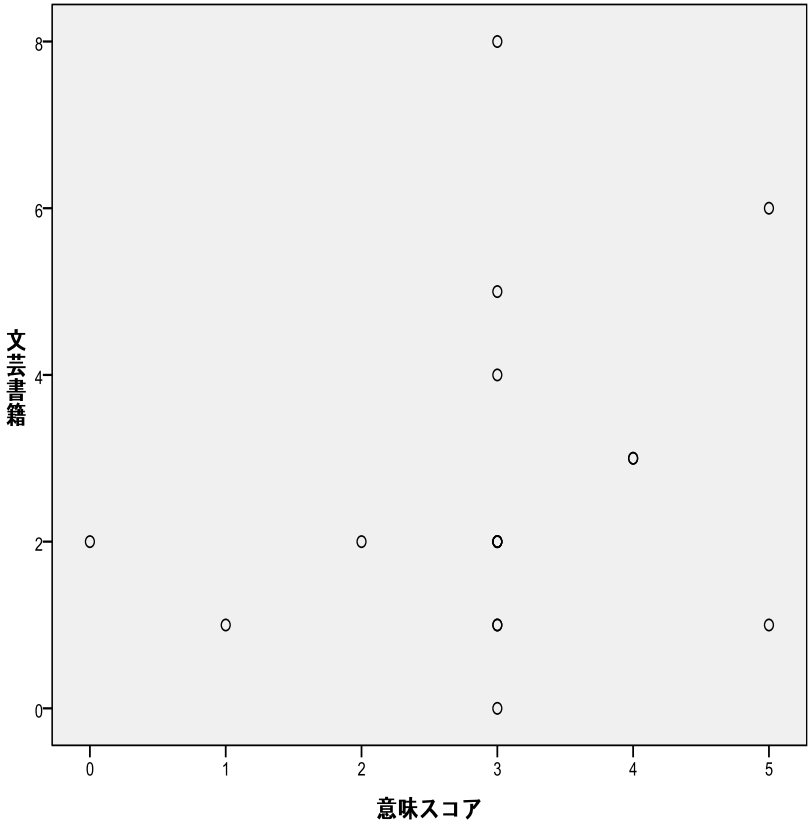
結果と報告
文芸書籍と合計スコアの関係

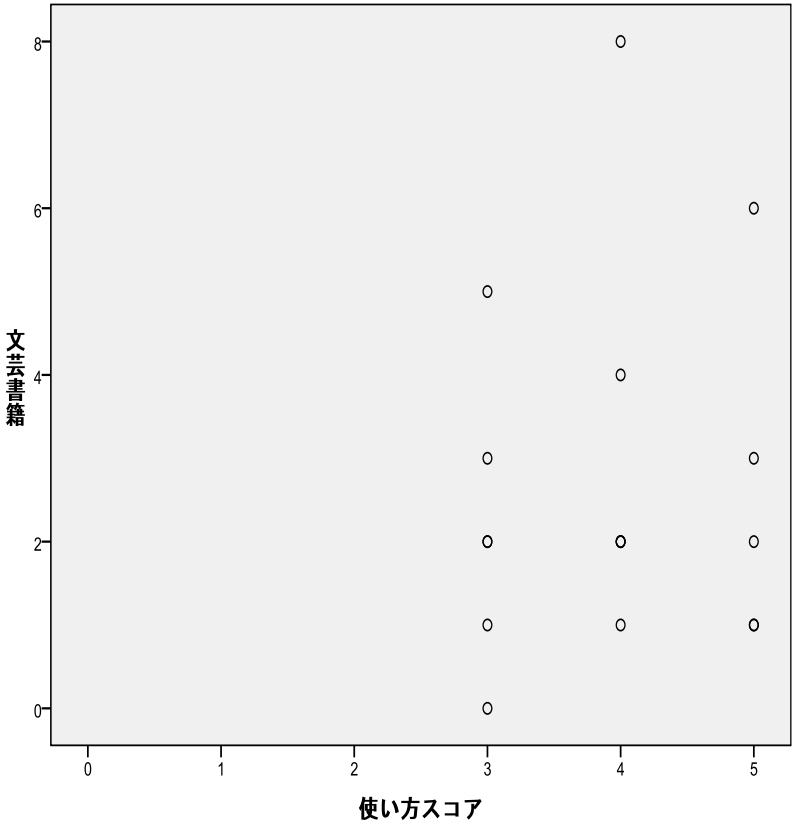
スコア（正解1点、不正解0点、満点10点）



文芸書籍と意味スコア・使い方スコアの関係

意味スコア・使い方スコア（正解１点、不正解０点、満点５点）





結果

- 合計スコアは相関係数（r）が０．２１９（p＝０．３９７）使い方スコアは相関係数（r）が０．０９７（p＝０．７１１）意味スコアは相関係数（r）が０．２４８（p＝０．３３８）で、いずれも５％水準でほとんど相関がないことが分かる。したがって仮説の文芸関連の書籍を多く読むほど誤用は少なくなるという仮説は成り立たなかった。

解釈

- 以上の結果より文芸関連の書籍を読むほど誤用は少ないという仮説は成り立たなかった。今回は最近一ヶ月間に読んだ文芸書籍の冊数を聞いたが、**たまたま**その月だけ多く読んだ人がいたり、ほとんど読まなかった人がいたと考えられた。最近一ヶ月間ではなく、一ヶ月平均で読んだ文芸書籍の冊数を調べていたら、違う結果になったと思った。

仮説３　インターネットに書き込みをする頻度が多い人ほど、誤用は多い。

質問文

③インターネット上に書き込みをすることがありますか？（ジャンルは問いません）　あてはまる方に〇を付けてください。

（１．ある　　２．ない）

④　③で「ある」と答えた方のみ回答してください。一週間のうちに、どのくらい書き込みをしますか？　　（約　　回）

（髙橋）

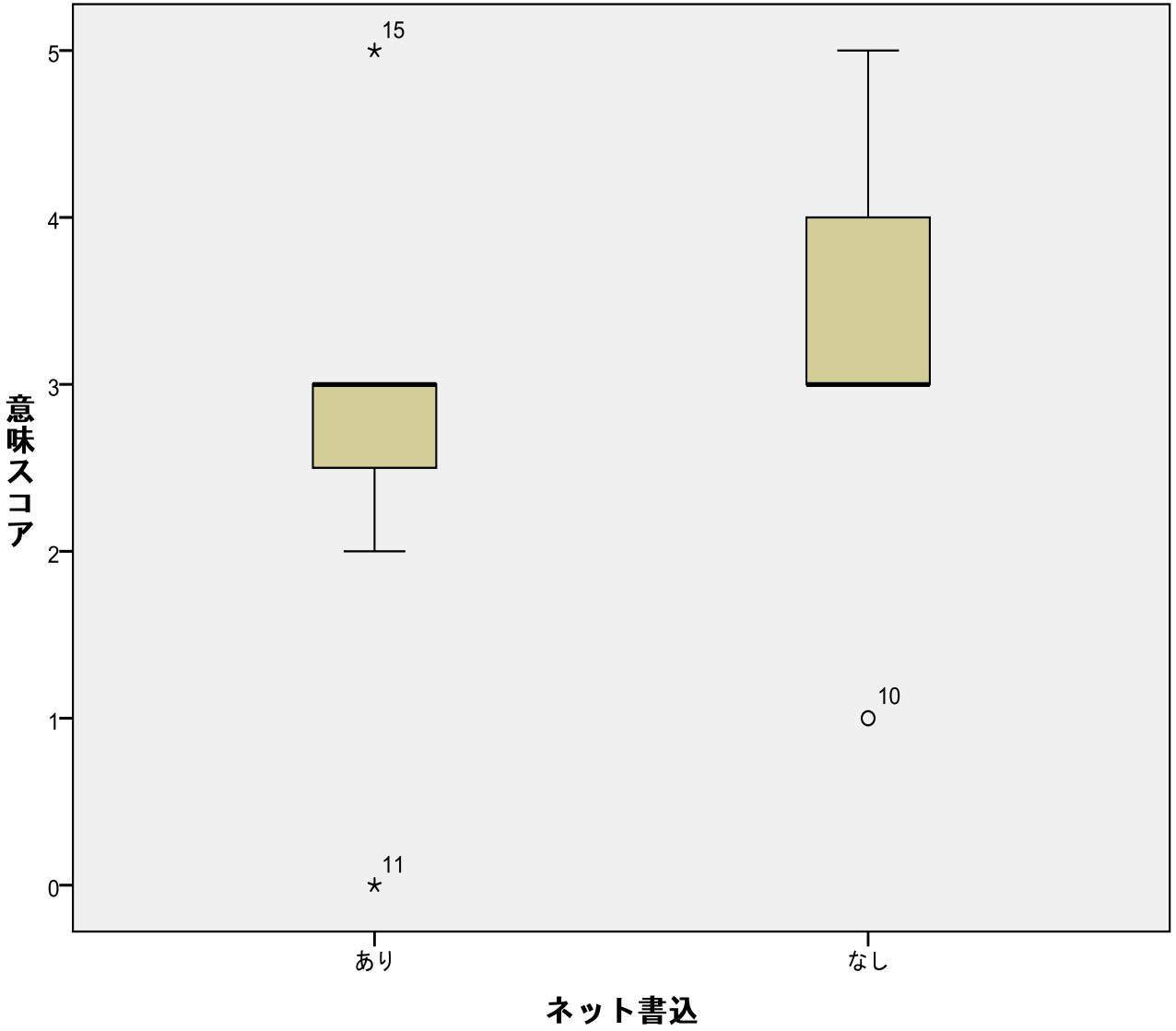
調査データ概要（有効回答数n＝１７）

書き込み　あり　８人　　なし　９人　計17人

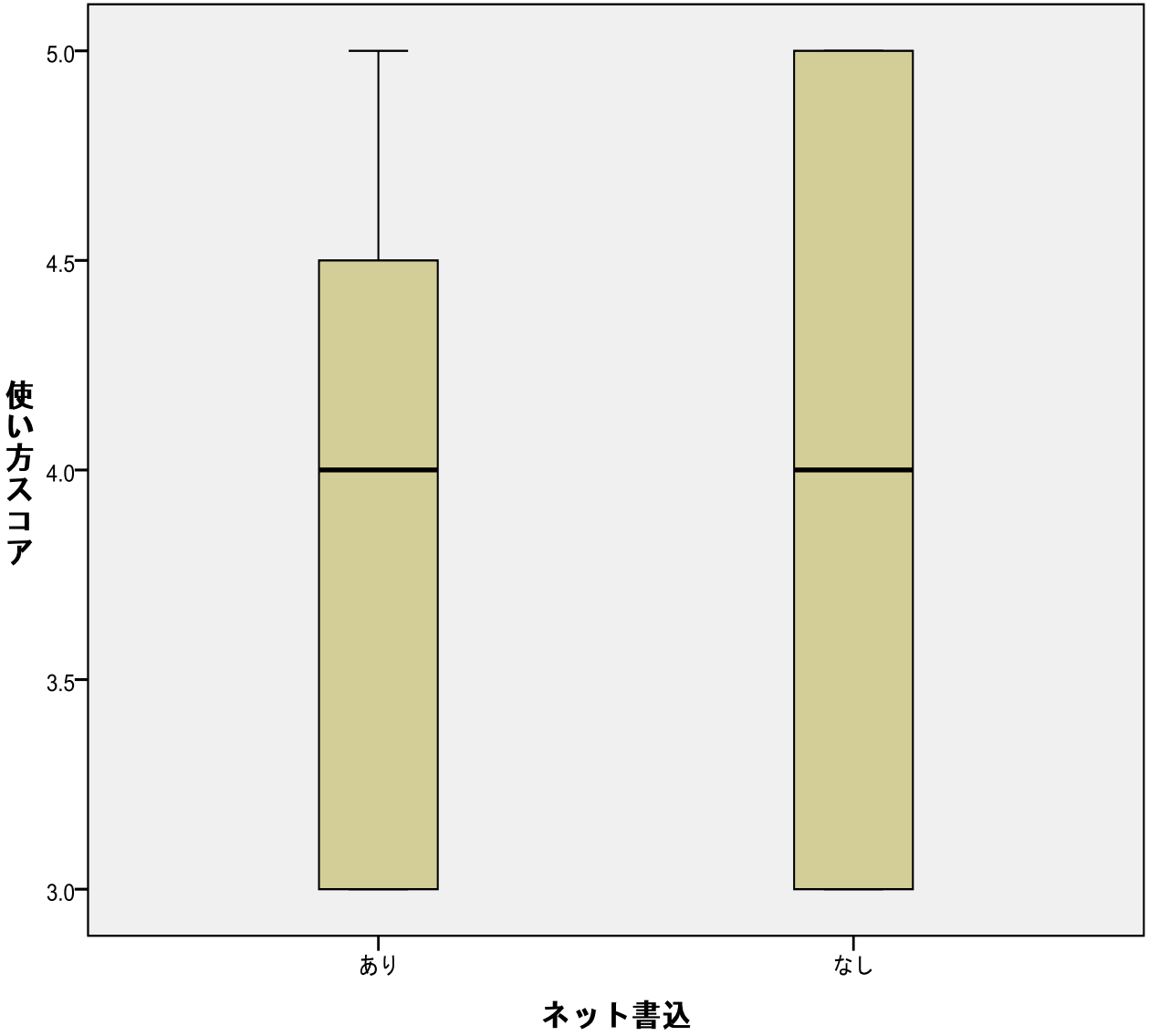
書き込み回数　最小値　０回　最大値　５０回

平均値　１０．７６回

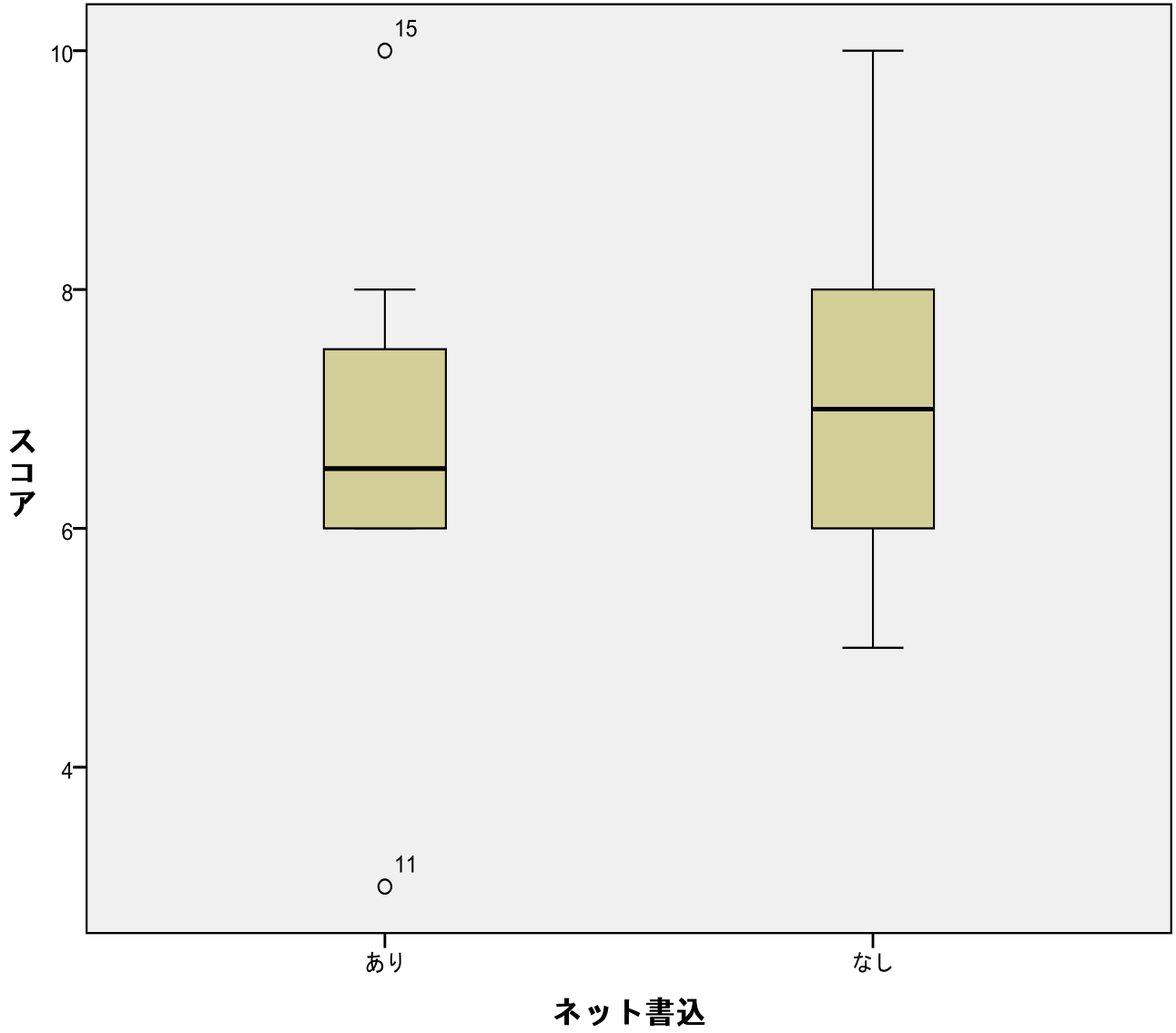
問い③の結果　意味スコア　n=17



問い③の結果　使い方スコア　n=17



問い③の結果　合計スコア　n＝17



問い③の解釈

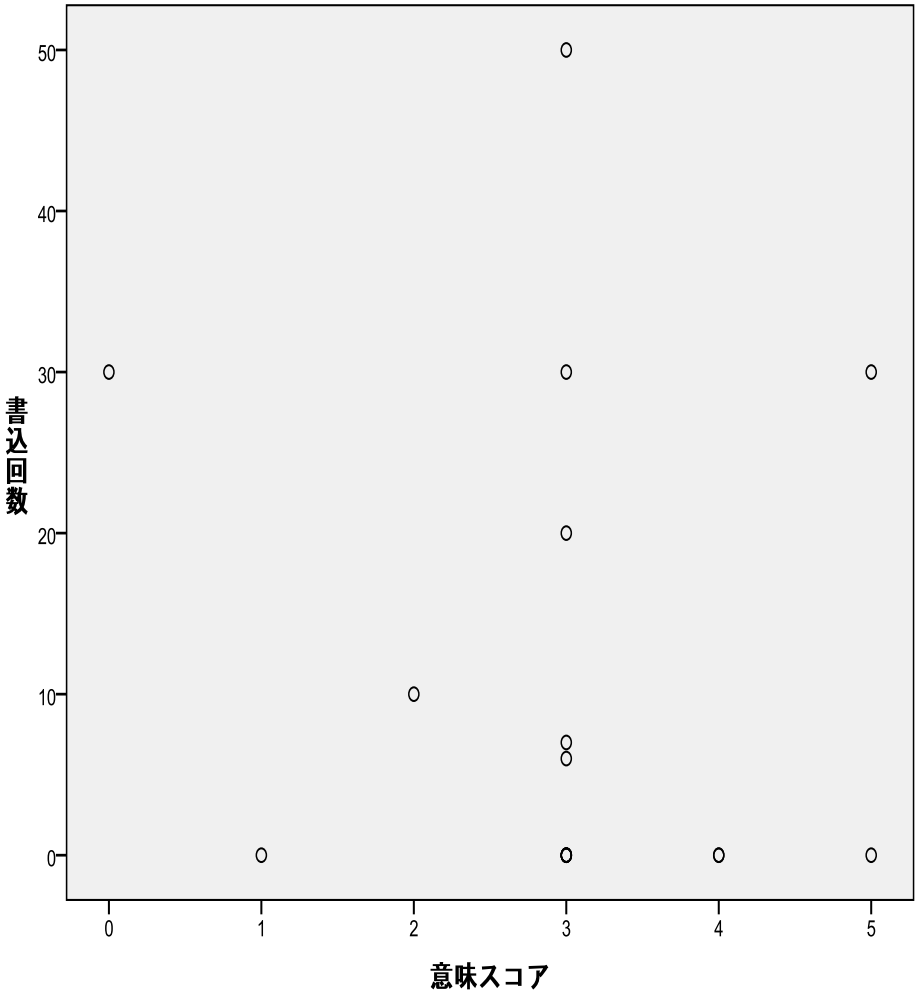
・意味スコアは、どちらも中央値が3であるが、「なし」が高得点の方に集中していることから、「あり」よりも高得点の比重が高い。

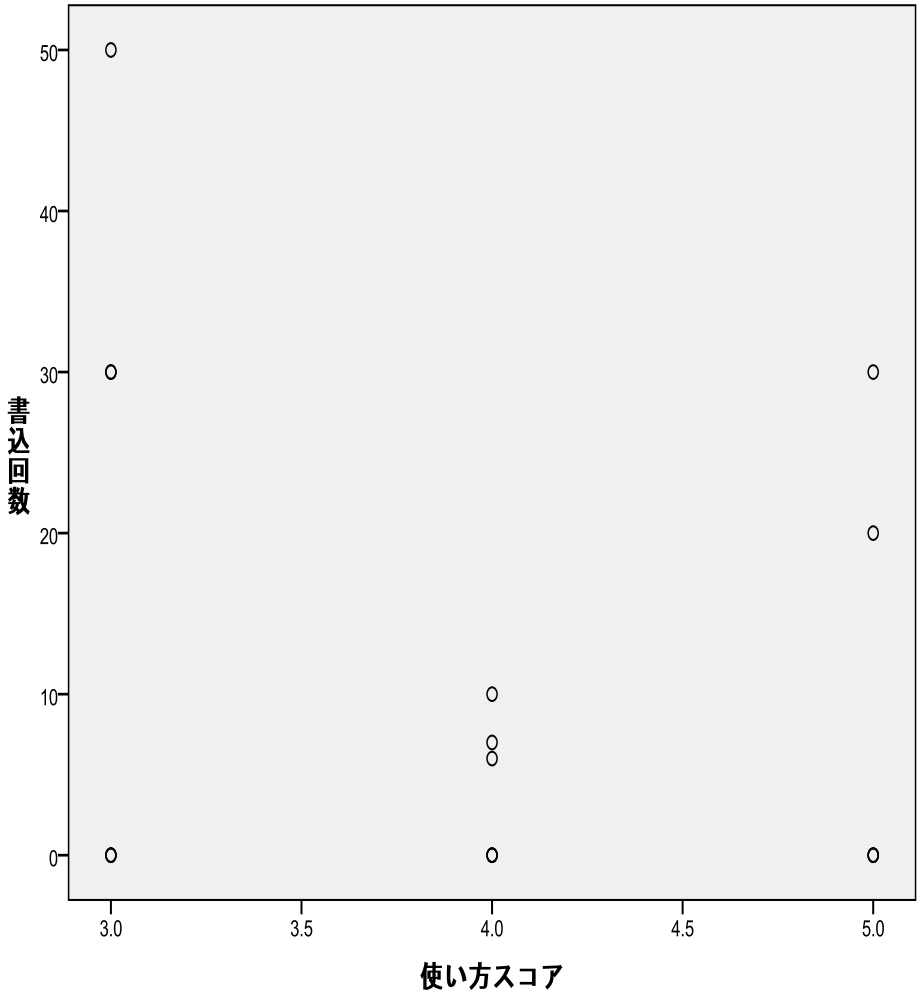
・使い方スコアは、どちらも中央値4、最大値5、最小値3で同じであるが、「なし」は全体が箱に含まれているので、こちらの方が高得点の比重が高い。

・合計スコアは、「なし」の方が中央値が高く、高得点に集中しているので、「あり」よりも高得点の比重が高い。

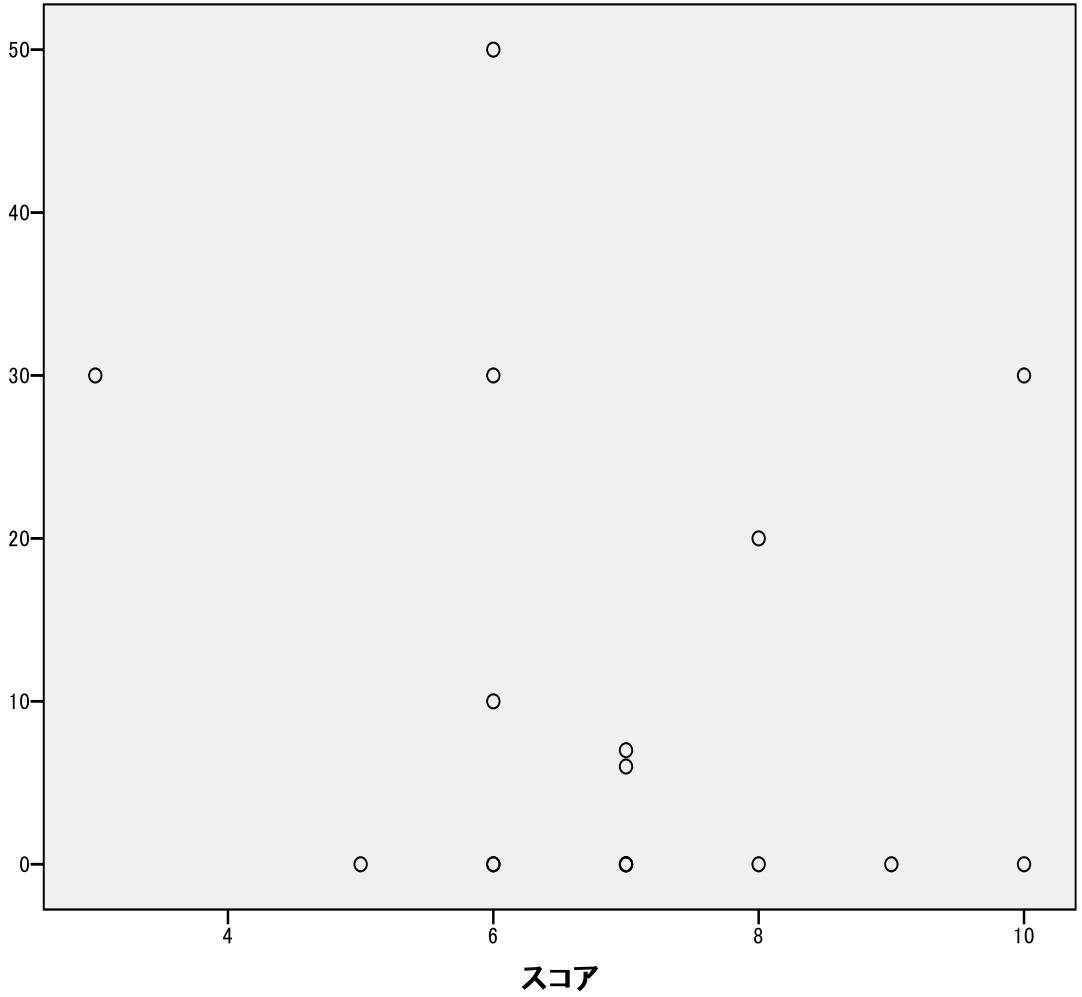
・以上から、仮説のように書き込みをする人の方が誤用が多いことがわかった。

問い④の結果　書き込み回数とスコアの関係　n＝17





問い④の結果　書き込み回数とスコアの関係　n＝17



問い④の解釈

・意味スコアは相関係数（r）が－０．１３２（p＝０．６１３）
使い方スコアは相関係数（r）が－０．２４１（p＝０．３５１）
合計スコアは相関係数（r）が－０．２０７（p＝０．４２６）で
いずれも5％水準でほとんど相関がないことがわかる。また
、散布図にも書き込み回数とスコアのばらつきがみられる
。したがって、書き込み回数が多い人ほど誤用が多いという
仮説は成り立たない。
・③と④で矛盾する結果が出たが、これは具体的なスコア
の数字とは関連がないものの、傾向としては書き込みをす
る人の方が比較的誤用が多いのではないかと考えられる。

まとめ

・以上3つの仮説の検証により、新聞、読書、インターネットへの書き込みの量が、それぞれ日本語の誤用の多さに直接関係しているとは考えにくい。

・フェイス項目の冊数や回数の質問の仕方が曖昧で、回答者によって解釈が異なったことが考えられるので、もっと詳しくしたらより細かい結果が出せたかもしれない。

・他に誤用の要因としては、文字情報ではなく、会話などの耳づてに伝わった可能性が考えられる。

・参考文献

吉沢典男 『どこかおかしいあなたの日本語』
幻冬舎 2003年3月